

研究プロジェクト

「金融機関の管理職におけるダイバーシティが金融機関のパフォーマンスに与える影響に関する調査」

● 背景

2021年7月、英国のPRA、FCA、BOEが共同で「Diversity and inclusion in the financial sector - working together to drive change」というディスカッションペーパーを発行した。本ディスカッションペーパーは、ジェンダー、年齢、障がい、教育、性的嗜好等の要因によりもたらされる「考え方のダイバーシティ」(diversity of thoughts、又は cognitive diversity)に焦点を当て、ダイバーシティと適正なリスク管理、良好なコンダクト、あるいは健全な職場文化との間に相関関係があることを証する研究があり、これらは、金融機関や金融市場、金融インフラの安定、公正及び実効性に貢献するものであるとして、「考え方のダイバーシティ」の向上が、金融機関や社会一般が直面する複雑で変化の早い課題の解決に必要であると指摘。関連する複数の問いをパブリックコメントに付し、英国の金融セクターにおけるダイバーシティ推進に当たっての規制監督当局の役割や有効な政策オプションを特定することを目指している。またこのような認識は、2021年12月のG7中央銀行総裁会議後の議長(英国イングランド銀行総裁)声明にも示されている。

他国の金融セクターが直面する課題の多くは、我が国の金融セクターにも該当するものと考えられる。そこで、我が国においても、ダイバーシティの程度がもたらすパフォーマンスの変化に関する学術的知見を獲得していくことにより、ダイバーシティを推進する意義を的確に理解するとともに、金融規制監督当局である金融庁としての対応の必要性やその目的、取組みの在り方を検討するための一助としたい。

● 研究内容

国内外の金融機関及び企業におけるダイバーシティと、例えば業績、イノベーション創発度合い、組織(文化)改革、リスクへの対応速度、金融リスクの大きさといったパフォーマンスの相関に関する先行学術研究を調査し、文献調査として取りまとめる。その後、国内に拠点を有する金融機関の管理職等におけるダイバーシティの状況(説明変数)と、パフォーマンスを測定する被説明変数との相関を分析する。

説明変数と非説明変数の選択は、文献調査等に基づき、当庁と相談の上、決定する。同時に、相関関係については、研究の過程で、研究員からの提案があることが望ましい。